

岩手県総合計画審議会
第1回岩手の学び・文化・スポーツ部会

(開催日時) 平成29年11月8日(水) 13:30~14:20

(開催場所) サンセール盛岡 2階「福来(東)」

- 1 開 会
- 2 委員及び事務局自己紹介
- 3 議 事
 - (1) 部会長及び副部会長の選出について
 - ア 部会長及び副部会長の選出
 - イ 部会長挨拶
 - (2) 部会審議の進め方について
 - (3) 次回の部会に向けて
 - (4) 各委員からの御発言
 - (5) その他
- 4 閉 会

出席委員

青木幸保委員、浅沼道成委員、五十嵐のぶ代委員、伊藤昌子委員、鎌田英樹委員、熊谷雅英委員、早野みさき委員

欠席委員

恒川かおり委員

1 開 会

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 委員の皆様おそろいになりましたので、総合計画審議会第1回岩手の学び・文化・スポーツ部会を始めたいと思います。

私は、事務局を担当いたします政策推進室の田澤と申します。今後、委員の皆様にはお世話になりますので、よろしく願いいたします。それでは、私のほうで暫時進行役を務めさせていただきます。

この部会につきましては、詳細は後ほど御説明いたしますけれども、県の政策分野のうち、教育、文化・スポーツなどに関連する政策分野を所掌いたしまして議論していくと考えております。本日の部会を含めまして全体で5回開催することを予定しておりますので、よろしく願いいたします。

2 委員及び事務局自己紹介

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 それでは、先ほどの審議会におきまして部会が正式に設置されたということで、外部委員の方も今回いらっしゃっておりますので、初めに委員の皆様から簡単に自己紹介をいただきたいと思います。その後、恐縮ですけれども、

これから議論に参加させていただく事務局の自己紹介も行います。

それでは、名簿順で自己紹介をお願いしたいと思います。青木町長さん、お願いいたします。

○青木幸保委員 それでは、名簿順ということで、私のほうから自己紹介させていただきます。平泉町長の青木幸保と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○浅沼道成委員 岩手大学の人文社会科学部にいます浅沼と申します。この部会のテーマにスポーツというものもありますが、スポーツ等、あるいはNPO法人とかかわった事業をしております。よろしくお願いいたします。

○五十嵐のぶ代委員 一般社団法人岩手県PTA連合会の会長を務めております、2年目の会長でございます五十嵐と申します。よろしくお願いいたします。当連合会におきましては、現在8万7,000人の会員さんを抱えております。日本全国、この昨今、PTA不要論や、任意か強制かといったことが話題になっておりますが、この岩手に関しましては我々県P連のほうで共済事業を行っております。子どもたちの学校管理下外の部分でさまざまな補償をさせていただいております。そういったいきさつもありまして、岩手に関しましては100%の会員さん加入ということで申しつけていただいているのですが、5年前は9万人を超えていたこのPTA会員数が今現在8万7,000人を切っております。先ほどの審議会の中でも、少子化、あるいは人口減について取り上げられておりましたが、我々も今後ますますPTAとして人数も少なくなって、その中で単位PTAの皆様方がよりよい活動をしやすいしていくお手伝いをさせていただければなと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○伊藤昌子委員 陸前高田市から来ましたNPO法人きらりんきつずの伊藤昌子と申します。震災前から駅通り商店街の空き店舗をリフォームいたしまして、子育て支援ということで、親子の居場所をつくっております。震災後は、教育委員を任命されて陸前高田市のほうでも教育分野に携わっております。子育て支援をしながら、子ども支援と言いながら、やはりお母さんのきらきとした笑顔とか子育てという部分、子どもに関しては教育ということの重要性も感じておりますので、微力ですけれども、お役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○鎌田英樹委員 岩手経済同友会の鎌田英樹と申します。経済同友会の中では人づくり委員会の担当を仰せつかっておりまして、若者と女性の活躍するそういう社会づくりというテーマで日々活動しているところでして、毎年8月に東京の同友会の経営者の皆様方に岩手においていただいて、岩手に対する提言の場を2日間にわたってやらせていただいております。東京の経営者の皆様からも、地元定着率の向上を図るためには、きょうの資料の中にも書いていますけれども、郷土愛というものが割とわかりやすいキーワードだろうというお話がよくあります。私も郷土愛というのは非常に大切だと思っておりますので、そういう方向からできれば議論をさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○熊谷雅英委員 滝沢市教育委員会の教育長をしています熊谷と申します。県の総合計画についても勉強にまいりました。どうぞよろしく願いいたします。

○早野みさき委員 東北銀行に勤務しております早野みさきと申します。よろしく願いします。昨年開催されました国体の女子チームのキャプテンを務めさせていただきました。そのときはまだ旧姓だったのですけれども、私が見てきた世界ですとか、そういうものが何かお力になればと思ひまして、今こちらに参加させていただいております。どうぞよろしく願いいたします。

○畠山文化スポーツ部文化スポーツ企画室企画課長 岩手県の文化スポーツ部文化スポーツ企画室で企画課長をさせていただいております畠山と申します。御案内のとおり、当部は、今年設置された新しい部でございますけれども、もう既にいろいろな方面で皆様から4月からお世話になっております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

○臼井文化スポーツ部文化スポーツ企画室主任主査 名簿のほうにはございませんが、文化スポーツ企画室で主任主査でございます臼井と申します。よろしく願いいたします。

○鈴木教育委員会事務局教育企画室企画課長 県の教育委員会事務局教育企画室の企画課長をしています鈴木と申します。どうぞよろしく願いいたします。

○本多教育委員会事務局教育企画室主任主査 同じく教育企画室で主任主査をしております本多と申します。どうぞよろしく願いいたします。

○和川政策地域部政策推進室主任主査 名簿には載ってございませんけれども、政策地域部政策推進室主任主査をしてございます和川と申します。よろしく願いいたします。

○七木田政策地域部政策推進室主任 同じく政策推進室の七木田と申します。どうぞよろしく願いいたします。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 部会の委員のうち、恒川委員におかれましては、本日所用により御欠席となっております。

3 議 事

(1) 部会長及び副部会長の選出について

ア 部会長及び副部会長の選出

イ 部会長挨拶

(2) 部会審議の進め方について

(3) 次回の部会に向けて

(4) 各委員からの御発言

(5) その他

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 それでは、議事に入りたいと思います。

本来であれば、部会長選出までの間、仮の議長をお願いして議事を進めるということにはなりますけれども、便宜的に事務局のほうで議長役を務めさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

「異議なし」の声

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 ありがとうございます。では、事務局において自分の間、議長役を務めさせていただきます。

まず、議事(1)の部会長及び副部会長の互選についてでございます。先ほど審議会におきまして御了承いただきました岩手県総合計画審議会運営要領に基づきまして、部会長お一人と副部会長お一人を委員の互選により決めることとされております。

互選の方法でございますけれども、特に御意見がないようございましたら、事務局から御提案をさせていただくこととしてよろしいでしょうか。

「異議なし」の声

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 ありがとうございます。

事務局といたしましては、部会長を浅沼道成委員、副部会長を恒川かおり委員にお願いしたいと思います。いかがでございますか。

「異議なし」の声

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 ありがとうございます。

それでは、部会長を浅沼委員に、副部会長を恒川委員にお願いしたいと思います。

恐れ入りますが、浅沼部会長には部会長席のほうにお移りください。

それでは、恐縮ですが、最初に部会長から一言御挨拶をお願いいたします。

○浅沼道成部会長 改めてよろしくお願ひいたします。前回の総計審の部会でも部会長を務めさせていただきました。人口減というのが前回のテーマでして、そのときは社会減を中心にまとめさせていただきました。先程自己紹介の中でも申し上げたのですけれども、大学では社会学のほうをやっているし、調査を中心に研究や授業をやっておりますので、その関係で前はそうだったのかなと思います。今回はスポーツもテーマとして入っておりますので、その関係で御指名いただいたのかなと思います。委員の皆様方にはいろいろと御意見をいただくことが重要と考えておりますので、忌憚のない御意見をいただきながら、私なりにといたしますか、何とか進めさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 ありがとうございます。では、これ以降の進行

につきましては浅沼部会長にお願いいたします。

○浅沼道成部会長 それでは、議事のほうに入りたいと思います。議事（２）部会審議の進め方につきまして事務局のほうから御説明をお願いいたします。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 それでは、事務局のほうから、お手元にあります資料１に基づきまして御説明させていただきます。

まず、部会の役割についてでございます。１番でございますけれども、次期総合計画の策定について本日諮問を行いまして、これから本格的な検討に入っていくということでございますけれども、長期的な観点から本県の将来を考えました場合に、進学、就職期の県外転出が本県の人口の社会減の大きな要素になっているということもございますので、県民のふるさとへの誇りとといったことや愛着を育むための教育といった点、それから早野委員からもお話がございましたとおり、昨年開催された希望郷いわて国体・いわて大会におきましては、本県選手団がすばらしい成績をおさめ、それに加えて県民のおもてなしの力が発揮されたり、全国からの震災復興支援への感謝の気持ちをあらわす場にすることができ、大きな成功をおさめたというレガシー、それから地域の文化を未来へ継承していくための取組といったところが重要な課題となってくるのではないかと考えております。

こうしたことから、この学び・文化・スポーツ部会におきましては、県民の教育、あるいは文化・スポーツの切り口から岩手の持つ価値を理解して、岩手のすばらしさを子どもたちに伝えるということ、生涯にわたって学ぶことができる環境をつくるといった取組の方向性などにつきまして御審議いただきたいと考えております。

２の主として所掌する政策分野についてでございますけれども、現行のいわて県民計画のベースで申し上げますと、教育・文化となります。

それから、３、主に関連性の強い１２の幸福の要素ということで、次期総合計画につきましては、幸福を一つの重要な要素として考えていくということにしてございますが、教育、歴史・文化が最も強く関連するものということでゴシックにしております。その一方で、県民が質の高い教育を受けて、県内の歴史や文化に触れて、魅力を感じるといったためには、例えば家族や家庭の支え、あるいは家庭における子育て、文化に触れる余暇の過ごし方、地域文化の維持とコミュニティの役割といったほかの要素にも密接に関連してくるものと考えております。委員の皆様におかれましては、本部会における議論の中で、このゴシックの教育、歴史・文化以外のほかの幸福の要素にかかわる御意見等につきましても、お考えの内容を御発言いただければと考えてございます。

４の主な審議内容についてでございます。御説明いたしました政策分野ごとに現状と課題、それから本県の目指す姿について、第２回以降の部会で御審議をお願いしたいと考えております。本県の目指す姿につきましては、現状と課題を踏まえた上で幸福の視点といったものも取り入れながら、今後の基本的な方向性等につきまして検討を行っていただきたいということと、それから取組の内容とその主体、役割分担などの具体的な展開方向につきまして、年度内を目途に取りまとめていきたいと考えております。そして、来年度になりますけれども、第４回、第５回の部会では中間答申案の策定に向けた作業を中心に検討を進めていきたいと考えております。審議の過程におきましては、委員の皆様の御審議

が円滑に進むように我々事務局のほうから案でありますとか、議論のたたき台を随時お示しいたしまして、委員の皆様から御意見を伺ってまいりたいと考えております。

部会の進め方についての説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○浅沼道成部会長 ただいま説明いただいた内容につきまして、何か質問ありましたら皆様方からお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

今のお話の中で言いますと、審議会では、ここに幸福領域と記載がありますが、幸福の指標として幸福感といえますか、それをもとにして新しい計画を立てていくという方向性について、その幸福という言葉自体の御説明も受けましたし、研究していただいた内容の報告をいただいたりしていますので、捉え方が微妙で難しい内容ではありますが、それをベースに置いた上で、先ほどお話のありました郷土愛があります。要するにそういったところをベースにして、これからの10年に向けた計画を立てていく。その中で、重要な文化・教育という分野について、本部会で審議するということになりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、続きまして議事（3）に移りたいと思います。事務局から御説明をお願いします。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 それでは、事務局のほうから資料2から5までのところで一括で御説明させていただきます。

まず、資料2でございますけれども、次回の部会に向けてということで、次期総合計画の策定に当たりまして、まず現在県庁の各部局では本県の強みだとか弱み、あるいはチャンスとリスクといった、SWOT分析とっておりますけれども、そういった分析作業を今行っております、今後取りまとめ作業を進めていくという段階でございます。委員の皆様が現状や課題についてお考えいただくためのたたき台ということで、県の分析の概要について委員の皆様にお示しいたしまして、その上でこの部会が担当する政策分野において、次の10年に岩手県が岩手全体で取り組むべきこと、あるいは方向性などにつきまして、第2回部会のところで御意見をいただきたいと考えております。御意見につきましては、委員の皆様御活躍の分野、あるいは地域で課題と普段感じておられる部分、それから関心の高い12の幸福の要素ですとか課題などについてお話しいただきたいと考えております。

1枚おめくりいただきまして、資料3から4、5につきましては、これまで総合計画審議会の中で取り扱った幸福指標でございますとか、本県が踏まえるべき時代の主な潮流について整理した資料となっております。次回の部会における御検討に当たりまして、委員の皆様御参照いただくために改めてお示ししたものでございます。

概略を簡単に御説明いたしますと、資料3につきましては、「岩手の幸福に関する指標」研究会が本年の9月7日に取りまとめた研究会報告書の概要版になります。こちらにつきましては、9月15日に開催しました前回の総合計画審議会御説明申し上げたものになります。概要としましては、1つ目として、県民の幸福感に関連する12の領域でありますとか、2点目としては主観的幸福感のほかに岩手では人並み感、他者との協調性といった協調的幸福感が重視される傾向にあること、3点目として、人とのつながりとしてソーシャル・キャピタルと書いてございますけれども、社会関係資本の重要性、それから本県のソ

ーシャル・キャピタルが全国の調査結果に比べて高い傾向にあるといったことなどが取りまとめられているものです。

資料4を御覧いただきたいと思います。資料4につきましては、12の幸福に関する要素、あるいは幸福を高めるための主要な論点、切り口、キーワードについて、参考までに県が取りまとめた資料でございまして、今年の2月に開催いたしました総合計画審議会で御説明申し上げた資料になります。学び・文化・スポーツ部会に関連するところで申し上げますと、例えば12の幸福関連領域の教育、下側、真ん中のところにございますけれども、主要な論点といたしまして『『子どもが生きる力を身につけられる環境、大人が学びやすい環境』とは?』という論点を設定し、切り口、問題意識としまして、例えば「どうすれば子どもが生きる力を身につけられる環境や大人が学びやすい環境を実現できるのか」といった切り口を設定しております。

それから、その他のところとして、キーワードなのですけれども、学力・体力向上だとか、キャリア教育といったキーワードなどについて、これはここに書いてあるものが全てではないと思っているのですけれども、そういったものを整理した資料になってございます。

こちらについては、12の領域全てを御説明する時間がございませんので、お時間があるときに御覧いただければと思います。

資料5を御覧いただきたいと思います。資料5につきましては、本県が踏まえるべき時代の主な潮流等につきまして、たたき台として取りまとめた資料でございます。これは、昨年11月の総合計画審議会で御説明申し上げたものと同じ資料になります。世界全体の社会環境変化と想定される岩手への影響、それから日本全体の社会環境変化と想定される岩手への影響、岩手における社会環境変化といった視点から取りまとめてございます。

これらの資料3から5までと、今後事務局のほうから部会の前にお送りいたします県の強みであるとか弱みを分析した資料も御覧いただきまして、次回の第2回部会で具体的に御意見をいただいて、議論を進めてまいりたいと考えております。

次回の第2回部会につきましては、12月中、下旬の開催を予定しております。委員の皆様には、事前に日程の照会をさせていただいております。そちらの回答をこちらのほうで調整させていただきまして、後ほど事務局から日程案をお示ししたいと考えておりますので、その際はよろしくお願ひしたいと思ひます。

次回の部会に向けての御説明は以上になります。

○浅沼道成部会長 ありがとうございます。ただいま今後の進め方、特に次回の部会で委員の皆様にお願ひする内容について御説明いただきましたが、御質問等ありましたらお願ひしたいと思ひます。次回は委員の皆様から意見をいただく予定ですが、きょうはその前段階として自己紹介などをお願ひしたいと思ひます。基本的には、今後12の幸福の指標を一つの切り口にして、教育、あるいはスポーツ、それから文化という各委員の得意な分野から御意見をいただきたいということです。それに関連して資料として強みと弱みのSWOT分析をまとめたものを事前に配っていただくということですね。

○田澤政策地域部政策推進室主任主査 はい。

○浅沼道成部会長 それでは、次回に向けては今事務局から御説明があったような形で、御検討をよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、残りの時間の中で、日ごろ皆さん方が取り組んでいるところの仕事や活動の内容等について今後の方向にかかわるようなお話をいただきたいと思ひます。今後このスポーツ、教育、文化という側面から、次の計画に対して御意見など今のお立場なり活動を踏まえて御発言願ひたいと思ひます。

順番で恐縮ですが、青木委員からお願ひいたします。

○青木幸保委員 私は平泉町から参加させていただいている立場でして、重要文化財の関係で文化庁に提案させていただいていることについてお話しします。重要文化財については、以前は重要文化財管理計画という名称だったのですが、最近は管理~~だけ~~でなく、重要文化財の保存活用計画という名称に変わってきています。活用するというのは、その資産を何かに変えて活用するというのではなく、そういった史跡、埋蔵文化財も全部含めて、史跡を活用しながら地域づくり、まちづくりをどのように行っていくか、自分の町だけでなく、周辺地域も含めて歴史・文化をどう活かしていくかという、そういう意味での活用のことです。実は、町内の子育て世代のお母さんたちから、公園が欲しいという強い要望をいただいています。特に、そういう方々は車で移動して一関市にある水辺プラザやいろんなところに出かけておりますが、平泉にもぜひ子どもが遊べる公園が欲しいという要望をいただいています。ところが、公園をつくるとなると、簡易なものでも 4,000 万から 5,000 万円ほど費用が掛かりますから、人口が少なく、一般会計で 45 億円程度の歳出予算しかない当町にとっては大きな負担となります。そこで、当町では、何も新たに公園をつくらなくても、豊かな環境と史跡があるではないかと考えました。皆さんも御承知かもしれませんが、いろんなイベント等も開催させていただいている観自在王院跡という芝生張りの史跡があります。例えばその上に土盛りして、ブランコをつくる、ゾウやクマなどの遊具を置くといった活用が考えられるのですが、そのためには何か基礎が必要となります。そのまま地面を掘ると史跡を壊すので、その部分だけ土盛りして、その上にそういった遊具もいくつか設置して、史跡を活用する形で、子育て世代の方に訪れていただき、子どもを史跡の上で遊ばせ、歴史を肌で感じながら史跡に親しんでいただく。お父さん、お母さんたちも子どもと一緒にボール遊びもできるといった活用を文化庁に提案しているのですが、当町がこの活用をしたいと言っても、文化庁はだめだと言うのです。当然のことかと思ひます。でも、当町ではこれからは違ふと。むしろ史跡を公園化するときこういう方法があると思うのですが、どこをどうクリアしたらいいかということを探ねられると、文化庁も、例えばこれをクリアするにはこういうことをしたほうがいいといった形で言わざるを得なくなると思ひます。町ができることと国でやることがあると思うのですが、立派なことを言えば風穴を開けるような提案を当町からしていきたいと思ひます。今までは管理計画だったのですが、保存活用計画と名称が変更されたので、活用ならそういう活用の方法もあるのではないかと。これを提案させていただいて、そしてそういった世代から史跡を学びながら、史跡の上で遊びながら、ここは昔は誰々の館の跡でこういう歴史があるというようなことも学べる。それを平泉学と称しています。保育所の子どもさんた

ちも、この間も芸術文化祭が開催されましたけれども、幼稚園の子どもたちが謡をやるのですけれども、その謡をきちっと教えていただく。そして、小学校でも平泉学として、地元のさまざまな歴史を知る。中学校では、修学旅行でも平泉の史跡を案内できるくらいになるように、当然我々も含めた幅広い年代で、中学校を卒業してから大人になるまで、我々がいなくなった後の時代であっても、平泉学を通して生まれ育った世代にいずれは変わっていくのですけれども、それを系統的に、まさに地域を知り、学んでいただくことによって、先程鎌田委員からお話が合ったように郷土愛といったものを育むためには、基礎的にそういうのをやっていかないといけないと思います。本来の姿の地域力をつけ、持続可能な地域をつくっていく、そういうところに文化財をもっと活用していくということが必要と思っています。

○浅沼道成部会長 ありがとうございます。

それでは続きまして、五十嵐委員さん、お願いします。

○五十嵐のぶ代委員 先程少し自己紹介させていただいたのですが、私は今上堂で暮らしております。PTA会員としては青山小学校、そして厨川中学校に在籍していて、義務教育のPTA会員として通算16年目になります。青山小学校では4年間PTA会長させていただいております。そのことに関連して、3つの提案させていただきたいと思っております。

まず1点目ですが、先程町長から公園のお話がありましたが、最近子どもたちが外遊びをしていると学校に苦情の電話が来るのです。熊谷教育長もよく御存じだと思うのですが、空き地でサッカーボールで遊んでいて、うるさいからやめさせてほしいという電話が学校に来たり、自分の家の庭で親子で縄跳びをしたり、パス練習をしたりと自分の敷地の中で遊んでいても、うるさいという苦情が学校に行ったりしています。それでは、どこでそういった遊びや親子の触れ合いをするかということになりますが、近場の公園に行くと、公園ではボールで遊ぶなど書いてあるのです。最近、ゲームやパソコンだけで遊ばせているということが問題提起されていて、教育委員会からも学校に対してさまざまな指導が入ったりもするのですが、実際子どもを育てている現状としては本当に育てにくい今の現代社会になっているなというふうに感じます。

2点目として、私が青山小学校でPTA会長をやっていた当時、8、9年ほど前ですが、子どもたちに地域に対する郷土愛についてのアンケートをとったことがあります。人口減、県外流出ということが盛んに審議会で話題になっているのですが、実は子どもたちは地域が大好きだし、便利なものにそれほど愛着を感じていない。例えば便利なものというのが車だったり、あるいはロケットだったり、飛行機だったり、求めているのはそういったものではなくて、ちょっとした買い物は地域でしたいし、自分の足で行ける範囲で生活していきたい、地域の人たちと仲よくしていきたい、そして食べ物も煮物が好きだったり、魚が好きだったりという、いわゆる茶色い食べ物のほうが子どもたちのランクの上のほうに入っていて、昭和生まれの私たちの感覚とは全く違う、自分の体で生活していきたい、自然と触れ合いたいという気持ちをととても強く持っているのだなというふうに感じました。その青山小学校の100人ぐらいの子どもたちは今20歳になっています。私たちの時代と違っ

て、それほど県外に出ているのではありません。そして、県外に出ている子どもたちも、岩手や盛岡が嫌いで県外に出ているのではなくて、きっかけとしては自分がやりたい学部がここがないから外に出て学ぶ。しかし、それは岩手を捨てるということではなくて、いつかは両親に還元したい、地域に還元したいという気持ちが多くあって、県外に出ていっているのだけれども、何かのタイミングで向こうに就職してしまったり、そういった意識が子どもたちはあるということをヒントとして私たちは考えていかなければいけないのではないかなと思います。

3点目として、先程の審議会で特別支援の関係のお話をさせていただいたのですが、県外に出てさまざまな会議に参加させていただいておりますと、特に特別支援のことで、「岩手さんって他団体との関係性がとてもスムーズですよ」というふうに言われます。といいますのが、例えば盛岡市内だと、おそらく耳にしたことがある方々もいらっしゃると思うのですが、ことばの教室の保護者会がきちんとあったり、特別支援学級の保護者会があったり、そしてそういった知識に長けている人たちの健常者の親御さんへの研修会だったり、学校の先生たちの研修会だったり、そういった自分たちのくくりだけではない団体さんを招いて情報交換するというのが、岩手は非常に特化しているというふうに感じます。実際隣の秋田県は、学力レベルが全国ナンバーワンというふうにずっと結果出しているのですが、そういった障がいを持った子どもたちの親御さん方のいろんな組織とつながる場面というのが非常に少なく、そのことで私は相談を受けたこともたくさんあります。ですので、先程達増知事がおっしゃったみたいに、岩手の強みとしてそういった関係性、風通しのよさという部分も今後何かの役に立っていくのではないのかなというふうに思っております。

以上、3点申し上げさせていただきました。

○浅沼道成部会長 では、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤昌子委員 すごくそのとおり、そのとおりと感じながらお話をお聞きしていました。やはり今ちっちゃい子どもたちの遊びは、保育所ぐらいからユーチューブを見てゲームをしてということで、外で遊ぶ場所が少なく、陸前高田市はこの4月に公園ができたので、親が連れて行って遊ばせているという感じなのです。乳幼児からいろんな体を使って遊ぶというのが今後のスポーツだったり学力向上につながるので、単にテストの点数を上げればよいということではなく、小さいうちから体を動かすという、遊びをもう少し重点を置いて考えていったほうがいいのではないかなと感じています。

学力向上は、家庭の力もとても大事だと思うので、家庭の中が幸福感であふれていて、ゆとりがあって、例えば住宅もそれなりにあって、お仕事もそれなりにあると、塾に行かせてあげられたりとか、子どもの勉強を見てあげられたりという、家庭の中がゆとり、幸福感にあふれているということが、子どもを育てるに当たって大事なのではないかなとすごく感じます。

私たちは、地域コミュニティがばらばらになっている状況で、市内の出生数が年間100人しかないように、前から少子高齢化ではあったのですが、それが急速に顕在化してしまったので、文化や歴史の継承については、青木町長がおっしゃったとおり、きちんと手を加

えてあげないと消滅していってしまうという強い懸念を持っています。市内では、動く七夕やけんか七夕などで、都会に行った子どもたちや長男が帰ってくるという、すごくいいツールにもなっているのですが、そのほかにも地域に残っているちょっとしたものが地域の方が高齢化してしまっていて、市や県が大事なものなのだと思いますということをきちんと言って、そういうものを保護してあげないと、本当に消滅していってしまうという危機感を感じております。

○浅沼道成部会長 ありがとうございます。

では、鎌田委員、お願いいたします。

○鎌田英樹委員 今回の審議会では、県の皆さんから過去の総合計画の推移をきちんと出していただいて、非常に県庁ではしっかり仕事しているなどと思って感心したのですが、これを拝見して、あらためて人口流出や若者の定着、高齢化というのは昔からある問題です。過疎というのもずっと続いている永遠のテーマといたしますか、おそらく岩手は、この先もそれを抱えながらみんなで生きていくしかないのだろうと思いつつこれを拝見しています。最近、よくグローバル社会と言いつつ外国に留学したり、あるいはかかわりながら生きていく方が増えてきているのですが、よく話を聞くのが、私自身は留学したことはないのですが、留学の経験のある方からお話を聞くと、外国に行って日本の歴史を語れない、そもそもそこで日本人はその程度かと言われると、勝負にならないと話をよく聞きます。自分の国の歴史も観光も文化も語れないで、世界でどうやって勝負していくのかとよく言われます。翻って、この岩手県の人たちが、若い人たちが首都圏へ出たいというのは、それははしかだとは言いませんけれども、それは憧れる気持ちもわかります。誰でもとは言いませんけれども、勝負してみたいと思う人もいるでしょうし、それはできればここに残ってほしいけれども、まず出ていくという、そういう思いもあるかと思えます。岩手県の歴史や文化、あるいは私たちは不幸にも震災という出来事を経験しているので、震災を語れるとか、そういう教育だけは子どもたちにきっちり伝えたいとか、教えたいと考えています。一旦県外に出ても、きちんと岩手を語れる、観光を語る、文化を語る、震災を語るという県、子どもだけではないですね、今からでも遅くないので、私たち大人だって、きっちり知識を入れなければいけないだろうと思えます。ついつい若い人という言い方をしてしまいますけれども、どちらにしても65歳以上の年齢、誰でもそういう年になるので、そういう人たちが30%を超えている岩手県なのだから、お年寄りも含めて岩手をきっちり知ることが大事だと思うので、そこを何とか推進できればというふうに思っています。

人によっては、よく外に出たときに南部牛追い唄だけではないのですが、民謡の一つぐらい歌えなければというような話もありますので、それぐらい外に向かって堂々と、南部よしゃれでも、外山節でも、そういうのは少なくとも覚えているとか、そういう役割を全部が全部教育に委ねるつもりはないのですが、郷土芸能も含めて、地域の人たちが誇りに思う、中野七頭舞とか鹿踊りとか、それぞれありますよね。ちょうど先程五十嵐委員がおっしゃったように、教育現場はかなり厳しいそうで、いろんなところから集まっているので、例えば七頭舞なら七頭舞を教え込もうとすると、ここのエリアの郷土芸能

ではないから学校が教えるのはいかなものかとか、クラブでしかできないとか、学校の授業の一環としては教えられないとかといった話も聞いたことがありますので、それも含めて世の中が随分窮屈になっているのしょうから、私たちも含めて、その辺りの意識を変えていかなければいけないと思います。できれば岩手に誇りを持てるような教育や知識は県民みんなで共有したいというのが私の思いでございます。よろしくをお願いします。

○浅沼道成部会長 よろしくをお願いします。

それでは、熊谷委員、お願いいたします。

○熊谷雅英委員 先程の自己紹介でもお話ししましたが、勉強させていただくつもりで参りました。今皆さんのお話をお聞きしながら、何か自分の教育が責められているようなふうにも感じていたところです。私なりにどんな教育が大切か、日ごろ考えていますのは、滝沢市の子どもや、岩手の子どもを考えたときに、自信を持たせる教育だと思います。先程、郷土に誇りを持たせたいという御意見がありました。まさに自分が育っている地域や岩手に誇りを持つということ、それから自分自身に自信を持つということが大切なのかなと感じております。そのためには、家庭でも学校でも褒めるということが必要でしょうし、それから厳しく指導しないとある一定のレベルまでにはいきません。早野さんのように、やはり褒められるだけでここまでは来ていないと思うので、自信を持つにはいろんなことが必要だと思うのです。ですから、厳しくしたり、頑張らせる、限界まで頑張らせてみたりとか、そういうことも通して自信を持たせるということがすごく大事なかなと思っています。

それから、意欲を持たせることが大切だと思います。自分から意欲を持ち、自分で工夫して、こうやるとうまくいったと思ったときに、次に自分から進んでやるようになると思います。そういう子どもの意欲を大事にした教育を心掛けていく必要があるかと思えます。

もう一つは、やはり思いやりの心というか、実は今日1時半から校長会議を開催する予定だったのですが、部会が開催されるので3時からにしまして、今出席しておりました。そのときにも話をするのですが、やはり思いやりの心、本日もいろいろな分野の委員さんが御出席されていますが、思いやりというのは命の教育であると思えますし、岩手では、生きてくても生きられなかった子どもたちなり大人がいるわけですから、岩手の子どもたちには思いやりの心を持つ教育をぜひしていくべきだと考えております。

今日は自信、意欲、思いやりの3つについてお話させていただきました。

○浅沼道成部会長 ありがとうございます。

それでは、早野委員さんお願いいたします。

○早野みさき委員 今のお話を聞いて、私に何かお話しできることがあるのかなと思いつながらお聞きしていたのですけれども、本当についこの間まで自分を高めることに一生懸命だった自分自身なので、すごく視野が狭いのだろうと思うのですけれども、私が今まで経験してきた中で一番衝撃を受けたのは、10年前なのでも、オーストラリアでの

夜、おそらく青木町長と同じぐらいか、もしくはそれ以上の年齢の方が、スティックを担いでグラウンドに集まってホッケーを楽しむという光景が私の中ですごく衝撃があって、日本もこうなるといいなと思ったことが、いまだに鮮明に覚えていて、お話しさせていただく機会があるたびにそういう話をするのですけれども、私はそんな日本に、岩手にしたいと思っていました。

ですから、先ほど郷土愛というお話もあったのですけれども、私は郷土愛を受けながらずっと20年以上競技を続けて、その郷土愛があったから岩手に戻ってきたという立場です。先程五十嵐委員もお話しされたのですけれども、意外と岩手に戻ってきたいという若い人たちは多いと思います。私の周りにも、大学、関東とか関西へ行ったのだけれども、岩手に戻りたい、でも仕事がないんだよねと言って、戻ってこられない子がたくさんいます。本当は戻ってきたい。ですから、そういう人たちの受け皿のようなところがあればいいなというのを漠然と思っています。そして、何より今スポーツがすごく注目されているなどというふうに感じます。それはすごく幸せなことだなと思いますし、スポーツって本当に人の心を豊かにするものだと思いますし、そして人と人とのつながりというものをすごく濃くしていけるものだと思うので、スポーツをいいように、いい道具に使うというか、そういう教育だったり、郷土愛だったり、人とのつながりがうまくいけばなというふうに思っています。例えば体を動かすことの楽しさというのをオリンピックが教えるとか、そういうものをうまく使えたらなと、そのために私戻ってきたのだなと思っていますので、そういうツールにしていいただければなと考えています。よろしくお願いします。

○浅沼道成部会長 どうもありがとうございました。

最後は私から少しお話しさせていただきますが、私自身は盛岡出身で、夕顔瀬に生まれ、本籍はいまだに材木町なのですが、厨川小、城西中と進みました。そこで一旦県外へ出て、たまたま九州のほうの大学に勤めてから、盛岡へ戻ってきて、もう20年を超えます。私自身は盛岡、岩手の出身というところから、立場的にいろんなことをやってみて、スポーツに関してはスポーツの指導者、資格を持った指導者の連絡協議会というのがあるのですが、その会長をしたり、あるいはNPO関係でいうとアイーナにあります県の施設のNPO活動交流センターの運営をしているいわてNPOフォーラム21というNPO法人の代表をしています。あるいはスポーツでいうと私はテニスをやっていますので、テニス協会の県の理事長、あるいはついこの間までは10年ぐらい日本テニス協会の常務理事もしていました。そういったいろんなところにかかわりながら、今何を考えているかという、すごくいいことがたくさんあるのに、岩手県はそれが何か埋もれていっていてもったいないなと感じている中で、キーワードは連携という言葉はずっと使っています。連携というと、最初のころはただシステムをつくって、何かつながっていればいいかなということで、何も意味がないような、特に私は連絡協議会という言葉をつけたところに多く行くのですが、連絡以外何も無いのです。単に時々集まって終わるという具合です。これを実質化して、本当の連携をとった仕組みをつくっていくという、その必要性を強く感じていまして、そこについて私も今回スポーツだけではなくて、部活動であったり、あるいは今町内会の副会長をやっていますので、町内会って大変なのです。いろんなところから今回ここでいろんな御意見を出していただきたいなと思っております。

それでは、おおむね時間になりましたので、皆さんからの御発言は以上とさせていただきます。それでは議事（５）のその他ということで、皆さんその他御発言ございますでしょうか。きょうはあまり時間をとれなかったのですが、今後さまざまな御意見をいただきたいと思っていますので、言い残さないようにして、うまく網羅して答申していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

それでは、進行を事務局のほうにお返しします。

4 閉 会

○田澤政策地域部政策推進室主任主査　それでは、議事進行ありがとうございました。

本日は短時間ということで、十分な御発言の時間もなくて大変申しわけありませんでした。

いずれ第２回の部会につきましては、後日日程、できるだけ早くお示しをして、日程調整したいと思いますので、よろしくお願いしますと思います。

それでは、本日の第１回部会は終了いたします。ありがとうございました。